

評価結果

ダイダン株式会社 北陸支店

CASBEE®-建築(新築)

使用評価ソフト : CASBEE-BD_NC_2016 (v4.0)

認証番号 : CBL-CAS建築-0015-21

交付日 : 2021年10月22日

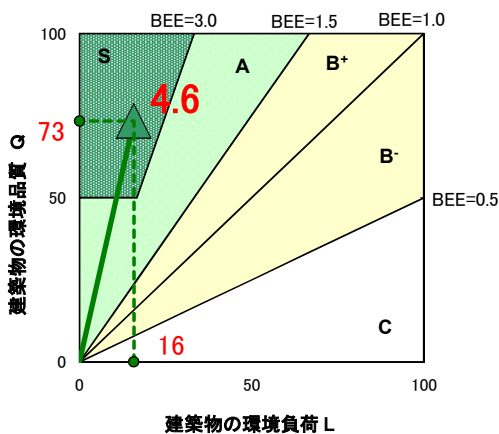
一般財団法人ベターリビング

建物用途	事務所	敷地面積	531㎡
建設地	石川県	建築面積	428㎡
気候区分	5地域	延べ面積	996㎡
地域・地区	商業地域、準防火地域	階数	地上3F
竣工日	2022年4月	構造	S造

建築物の環境効率 (BEE: Built Environment Efficiency)



S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



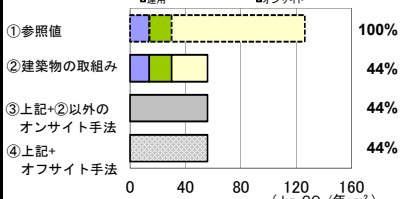
$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質} Q}{\text{建築物の環境負荷} L} = \frac{25 \times (SQ-1)}{25 \times (5-SLR)} = \frac{73.3}{15.8} = 4.6$$

ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

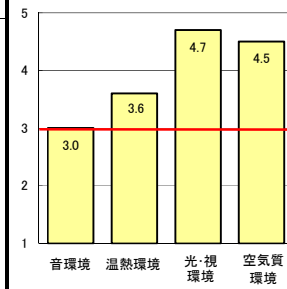
中項目の評価(バーチャート)

Q 建築物の環境品質(建築物の居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ = 3.9

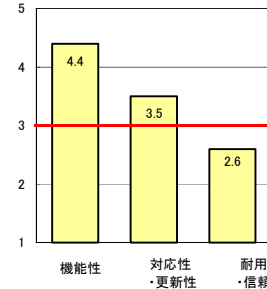
Q1室内環境

SQ1 = 4.0



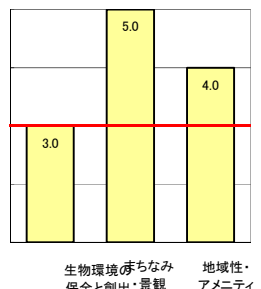
Q2サービス性能

SQ2 = 3.6



Q3室外環境(敷地内)

SQ3 = 4.1



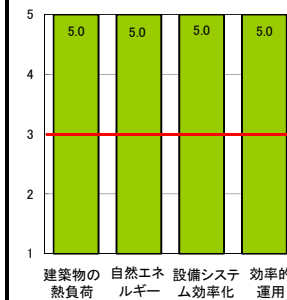
大項目の評価(レーダーチャート)

LR 建築物の環境負荷低減性(建築物の環境負荷を低減させる性能評価)

SLR = 4.3

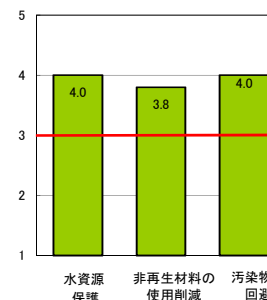
LR1エネルギー

SLR1 = 5.0



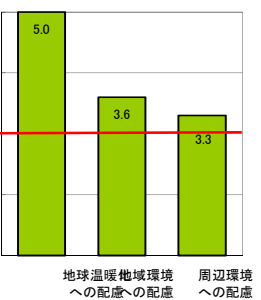
LR2資源・マテリアル

SQ3 = 3.8



LR3敷地外環境

SLR3 = 4.0



スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					3.9
Q1 室内環境			0.40	-	4.0
1 音環境		3.0	0.15	-	3.0
1.1 室内騒音レベル	-	1.0	0.40	-	
1.2 遮音		4.6	0.40	-	
1 2 開口部遮音性能	-	5.0	0.60	-	
2 界壁遮音性能	-	4.0	0.40	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	
1.3 吸音	-	4.0	0.20	-	
2 温熱環境		3.6	0.35	-	3.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	
1 室温	-	3.0	0.38	-	
2 外皮性能	-	3.0	0.25	-	
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	-	
2.3 空調方式	-	5.0	0.30	-	
3 光・視環境		4.7	0.25	-	4.7
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	
1 昼光率	-	5.0	0.60	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	-	
3.2 グレア対策		5.0	0.30	-	
1 昼光制御	-	5.0	1.00	-	
3.3 照度	-	5.0	0.15	-	
3.4 照明制御	-	5.0	0.25	-	
4 空気質環境		4.5	0.25	-	4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	
1 化学汚染物質	-	5.0	1.00	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	
1 換気量	-	4.0	0.33	-	
2 自然換気性能	-	3.0	0.33	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	
1 CO ₂ の監視	-	5.0	0.50	-	
2 喫煙の制御	-	5.0	0.50	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	3.6
1 機能性		4.4	0.40	-	4.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	
1 広さ・収納性	-	4.0	0.33	-	
2 高度情報通信設備対応	-	4.0	0.33	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	
1 広さ感・景観	-	5.0	0.33	-	
2 リフレッシュスペース	-	5.0	0.33	-	
3 内装計画	-	5.0	0.33	-	
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計	-	5.0	0.50	-	
2 維持管理用機能の確保	-	5.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30	-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	4.0	0.20	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	4.0	0.10	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	5.0	0.20	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	
2.4 信頼性		4.6	0.20	-	
1 空調・換気設備	-	5.0	0.20	-	
2 給排水・衛生設備	-	5.0	0.20	-	
3 電気設備	-	5.0	0.20	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	
5 通信・情報設備	-	5.0	0.20	-	

3	対応性・更新性			2.6	0.30		-	2.6
	3.1 空間のゆとり			1.8	0.30		-	
	1	階高のゆとり	—	1.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	4.1
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30		-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	5.0	0.40		-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30		-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	5.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.3
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	5.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	5.0	0.10		-	5.0
3	設備システムの高効率化		—	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用			5.0	0.20		-	5.0
	集合住宅以外の評価			5.0	1.00		-	
	4.1	モニタリング	—	5.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制	—	5.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-		-	
	4.1	モニタリング	—	-	-		-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-		-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護			4.0	0.20		-	4.0
	1.1	節水	—	4.0	0.40		-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	4.0	1.00		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-		-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60		-	3.8
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20		-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	5.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	5.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20		-	4.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	4.0	0.30		-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
	1	消火剤	—	-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	5.0	0.50		-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	4.0
1	地球温暖化への配慮		—	5.0	0.33		-	5.0
2	地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
	2.1	大気汚染防止	—	5.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制	—	4.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	5.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮			3.3	0.33		-	3.3
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1	騒音	—	3.0	1.00		-	
	2	振動	—	-	-		-	
	3	悪臭	—	-	-		-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-		-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30		-	
	3.3	光害の抑制		4.7	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	5.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	4.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	-	○	○	○	○	○	-	○	○		
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0		-	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0		○	○	-	-	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	3.0	○	-	-	-	○	○	○						
2.4.3 電気設備	4.0	4.0	○	○	○	-	○	-							
2.4.5 通信・情報設備	4.0		○	-	○	○	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		-	-	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	6.0		2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	6.0		-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		-	-	2.0	1.0	2.0	-	2.0	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	○
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				-											
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	2.0	-	1.0	-	1.0	3.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0		1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m²K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

屋光率 4.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 11.9㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 46.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.9 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 50 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 10 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 3.5 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 35.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 2900 N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 32% 建物緑化指数 21%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 20% 水平投影面積率 27% 地表面対策面積率 12% 舗装面積率 17%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.59 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 110 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

BPI/BPI_m 非住宅 0.36 住宅 - 太陽光 11.7kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 22.0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 ビニル床材、天井、エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 49% 隣棟間隔指標R_w 0.20

地表面対策面積率 19.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 10.0%

見付面積S_b 30㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 30 m 基準高さH_b 30 m

緑地 124㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 8㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡